

令和4年度周南市こども育成支援対策審議会(第6期第6回)会議録

日 時	令和4年11月15日(火) 15時00分～16時30分
場 所	周南市本庁舎5階 委員会室3
議 事	<p>議題</p> <p>1. 第2期周南市子ども・子育て支援事業計画中間年の見直し案について</p> <p>2. 周南市地域子育て支援拠点施設分類別計画案及び周南市児童クラブ施設分類別計画案について</p>
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員9名 ※会議成立(欠席:田中委員、加村委員、小林委員) 井上会長、兼重副会長、竹下委員、木村委員、秋重委員、渡山委員、大野委員、原委員、山本委員 ● 事務局16名 こども・福祉部こども局 穴田局長 次世代政策課:綿野課長、徳田課長補佐、高木係長、坂田主任 こども支援課:上野課長、石田課長補佐、有福課長補佐、吉松係長、松村係長 あんしん子育て室:柿並室長、宮崎室長補佐、橋所長 学校教育課:原田課長 生涯学習課:川上課長、福岡係長

議題1「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画」中間年の見直し案について	
資料1	
第2期周南市子ども・子育て支援事業計画見直し案(以下「資料1」という。)	
第2期周南市子ども・子育て支援事業計画(以下「計画」という。)	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども支援課、あんしん子育て室、生涯学習課の順に、資料1により、「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画見直し案」について説明。次世代政策課より、計画73頁「推進体制」の今後の見直し予定について説明。
○委員	就学前の年長児で幼稚園、保育所等を利用していない人はいるか。
□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>年長児で未就園の子どもについては、毎年度確認しているが、数名いる。経済的な理由や発達特性によって入園がかなわないケースなど</p>

	がある。保健師が定期的な訪問を行い、支援を継続している。
○委員	<p>保育所について、4月には入所しやすいが年度途中の入所は難しいと聞く。育児休暇明けでは入所できないことを予測して、もう少し家庭で養育したいが、諦めて4月から入所するケースも多いと聞く。年度途中でも入所できるようになるといいと思う。</p> <p>一時預かりについて特に0～1歳児についてよく問合せがある。母のレスパイト目的など、様々な理由があるが、保育士が確保できないと断ることもある。「いいですよ」と言える体制が取れたらと思っている。</p>
○委員	他市からの転入などでも、ひとり親家庭が多くなっている。保育所は年度途中からの入所が難しいと聞くが、入所決定の優先順位はあるか。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>周南市では保育の入所調整についての基準を設けており、周南市子ども・子育て支援法等施行細則の中に基本点数と調整点数を定めて調整している。保育の必要性、例えば就労や妊娠・出産、疾病等の理由により点数をつけ、さらに家庭の状況、例えばひとり親、希望園にきょうだいが在園している、などの項目について加点し、保育の必要性が高い人から優先して入所を決定している。</p>
○委員	教育・保育施設の確保方策の中で、都市地域の2号認定の教育希望について、確保量が見込み量から考えて若干不足しているように見えるがどうか。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>1号認定と2号認定の教育希望は、いずれも幼稚園の利用を指しており、保護者の就労状況によって1号、2号と区分している。2号認定の教育希望の確保量が不足していても、1号認定の確保量に余裕があれば、幼稚園全体の確保量としては補えるため、問題はない。</p>
○委員	保育士の不足が話題になっているが、市としての保育士の確保策があれば具体的に教えていただきたい。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>保育士の確保には、苦慮しているところである。市の取組みとしては、保育士が保育に専念できるよう、保育補助者の配置、健康支援を行う看護師の配置について、私立の園への補助等を行っている。今後も他市の状況等を見ながら確保方策を考えていきたい。</p>

○委員	<p>山口市では、子育て支援センターを利用されている保護者に、国家試験ルートで保育士を目指していただき、そこから保育の担い手の充足につなげる、という取り組みを行っている。大学では国家試験ルートでの保育士の育成について、昨年度から取り組んでいるところである。今後、他市の事例も含めてそのような情報が入手できれば、この場でも紹介していきたい。</p>
○委員	<p>年度途中での待機児童が少し出てきているという話だったが、実際にどのくらいの人数が待機しているのか。</p> <p>両親の就労等で保育を希望される家庭が増えているということだったが、そのような家庭に対して受け入れが可能になるように私立幼稚園も体制を整えていっているところである。私立幼稚園協会でもできることがあれば協力したいと考える。詳しい待機の状況等を知らせていただければ各園でも検討していきたい。</p> <p>また、公立幼稚園を利用する人数が減っている印象がある。人数が少なくなると園の合併・閉園が起こり、特に中山間地域などで教育機会が減少するのではないかと懸念している。市で何か考え等あれば聞かせてほしい。</p>
□事務局	<p><u>こども支援課</u></p> <p>現在、本市に厚生労働省が定めるところの待機児童はいないが、希望する園に通えない児童が70人程度はいる。理由としては、保育士が十分確保できていないこと、保護者が希望する場所に保育施設がないことなどである。特に徳山地域中心部については、保育施設が十分でない場所もあることから、エリアに分けてしっかり考えていくため、別に公立施設の再編整備プランを設けて実施しているところである。他のエリアについても今後じっくり考えていきたい。</p> <p>公立幼稚園は私立幼稚園に比べて利用者の減少が顕著になっている。理由はいろいろあるが、公立幼稚園は4歳から教育を実施しているところもあることや、教育・保育の無償化が満3歳児から対象となることから、私立に行く人が多くなっている現状がある。</p> <p>中山間地域の状況としては子どもの数が予想より早いペースで減少している。公立については中山間地域においても必要などころにはしっかりと教育の提供をしていきたいと考えるが、利用者が数人しかいなくなった場合は、一定の集団規模による教育が子どもの成長には大切であることも踏まえ、状況に応じて検討していきたい。</p>

議題 2 「周南市地域子育て支援拠点施設分類別計画案」及び「周南市児童クラブ施設分類別計画案」について	
資料 周南市地域子育て支援拠点施設分類別計画案(概要版) (以下「資料2」という。) 周南市児童クラブ施設分類別計画案 (以下「資料3」という。)	
◎会長	議題2について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	次世代政策課から現在の周南市子ども関連施設施設分類別計画について説明。 あんしん子育て室から周南市地域子育て支援拠点施設分類別計画案について資料2により説明。
	質疑なし
□事務局	生涯学習課より周南市児童クラブ施設分類別計画案について資料3により説明。
	質疑なし
その他	
◎会長	その他、何かあればお願いします。
○委員	先日新聞に出ていたのだが、山口県のいじめの報告件数が昨年度4,197件で、令和2年度より306件増えているということだった。周南市ではどのような状況か。
□事務局	学校教育課 いじめの報告件数としては増えている。これは報道等でも言われているが、学校がいじめについて積極的に認知し、できるだけ早期に対応していこうという取り組みの成果の現れと捉えている。
○委員	先日、主任児童委員の研修でヤングケアラーについて勉強してきたが、周南市においてはまだ、困難な状況に置かれている子どもの様子が見えてきていないということであった。「貧困」イコール「ヤングケアラー」というわけではないが、ヤングケアラーの現状なども視野に入れながら貧困対策に取り組んでいただきたい。
□事務局	あんしん子育て室 ヤングケアラーについては、今年度、学校で調査を実施している。その中で個別に支援が必要と判断されるケースについてはあんしん子育て室にある、こども・子育て相談センターで個別の対応という形で家庭等への介入をしていくこととしている。
○委員	公立幼稚園について伺いたい。選択肢が多い都市部では時間が短い

	<p>などの理由から公立幼稚園を選択することは少ないのではないかと感じる。今後の方向性として、公立の幼稚園も私立の幼稚園並みに時間を延長するなどの対応をしていくのか、そのあたりは私立幼稚園にお願いするという方向性なのか。</p> <p>中山間地域など選択肢のない地域では違ってくると考えられるし、公立幼稚園の必要性も高いと思うが、そのあたりの今後の方向性が分かれば教えてほしい。</p>
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>幼稚園を利用される方より保育所を希望される方が全体的に多くなっている。それに加えて全体的な子どもの数が大きく減少している。幼稚園を希望される方もいるが、エリアによって違いがある。私立幼稚園では預かり保育の実施や、認定こども園という形で運営している園もある。こういった形が一番いいか、個別に地域の状況を踏まえて検討していきたい。</p>
○委員	<p>今後また新しい子ども・子育て支援事業計画策定に向けてニーズ調査、更に第3次の計画策定という流れになるが、今後はぜひ当事者である子どもの声を聞く機会を設けていただきたい。当事者の声を聞く、ということはごく一般的になってきていると思うので、子どもの声を聞くなんらかの方法を検討していただきたい。そこからどんな子ども達が未来を造っていけるのか、というあたりを計画づくりに結び付けていけるといいなと感じている。</p>
◎会長	<p>質疑を修了する。</p>
□事務局	<p>様々な貴重な意見をいただいた。次の審議会は3月下旬に開催を予定している。引き続きご協力をお願いしたい。</p>